

委員会県内視察レポート

産建厚生常任委員会

◎2月6日(月)、和歌山県土砂災害
啓発センターを視察

近年の集中豪雨の増加により、頻発している土砂災害の発生メカニズムやハード対策を調査し、今後の防災対策の参考とするため、視察した。

この施設は、平成23

年の紀伊半島大水害における土石流等で甚大な被害を受けた那智勝浦町に、和歌山県が土砂災害に関する研究及び啓発の拠点として設置した施設である。

土砂災害の発生は、



土石流模型実験

豪雨、台風、地震等による地形や地質の変動が原因であり、当町のような急峻な山や谷が多い地域では特に警戒が必要である。

また、台風について、平成元年から令和元年までの約30年間での上陸数は、和歌山県が全国で第2位となっている。

動画・スライドによる研修では、土砂災害の分類として主に土石流、地すべり、がけ崩れがあり、実際の映像で説明を受けた。

すべり面の深さによる分類では、表層崩壊と深層崩壊があり、紀伊半島大水害では、大規模な災害となる深層崩壊や土石流が多数発生し、大きな被害につながった。

模型実験では、土石流のメカニズムや砂防堰堤の効果等を実験により説明を受け、危険



砂防堰堤の説明

箇所への砂防堰堤の設置等により、被害を人的に軽減することは可能であることを理解した。

【意見】

災害から身を守るためには、日頃からハザードマップ等で危険な箇所や避難場所を確認し、避難情報や異変を感じたら、避難のタイミングを計り、早目に安全な場所へ避難す

ることが重要である。センターが実施している小・中学校への防災学習は、子供の頃から防災に関する知識や関心を持つという意味では大変良い取り組みで、当町においては、令和4年度から学校への出張授業が積極的に実施されている。

今後継続して幅広く啓発活動に取り組んでもらいたい。